

旧平野家住宅

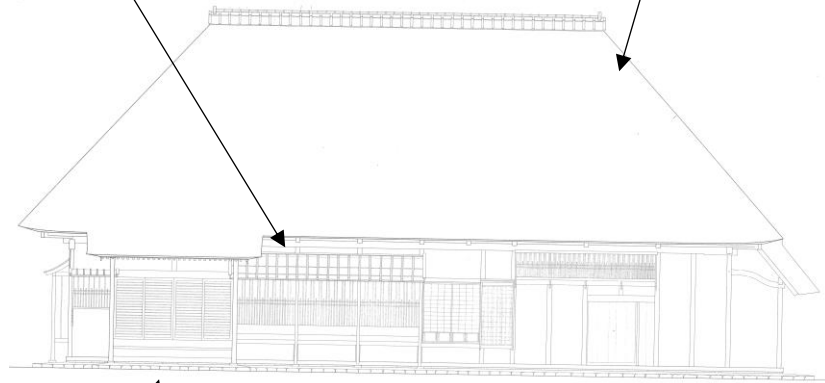
(1) 歴史 寛延4年(1751)、現在の富津市亀沢に建てられました。平野家は代々亀沢村の名主を勤めていたと伝わっています。昭和46年(1971)まで、その間の生活様式の変化に合わせて、様々な改造や増築を行いながら、200年以上使われてきました。ただし、建物構造には大きな変更がなく、千葉県江戸時代中期の農家として、当時の建築様式をよく残していたことから、千葉県指定文化財に指定された後、現在地に当初の姿に移築復原され、一般公開しています。

(2) 建物概要 千葉県の江戸時代中期の農家としては、かなり大規模で、客座敷を立派に整え、「せがい造」により軒を四方に持ち送りする等、大変進んだ形式です。「せがい造」とは、深い軒先をつくるため、主屋の柱から腕木を突き出して桁をのせ、この部分に天井を張る構法で格式ある家の象徴です。

(3) みどころ

出格子窓 当初からのもので、内側は引違い障子です。

屋根 そそりたつような、急な勾配の大きな寄棟造の茅葺屋根です。



玄関 式台
玄関で、茅葺の庇屋根が付きます。戸口の中は4畳の板の間です。

なかんくち
日常客の出入り口です。一間幅を後に一間半に広げ、庇や上り段も付けました。

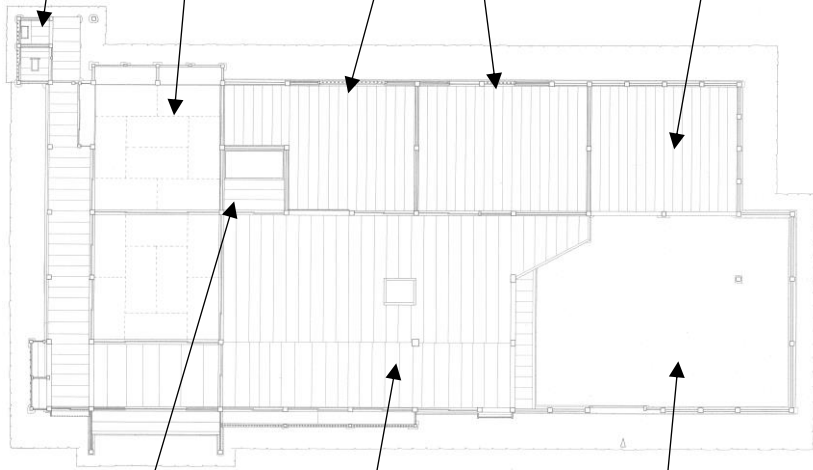
大戸口 土間への出入り口です。その上に中二階の格子窓が付きます。

おく 正面に床棚、左手に書院が付いた書院造の座敷で、特別なお客様や冠婚葬祭の際に使用されました。

なんど 二間^まで、右は穀物格納用です。入口の敷居高19cmの納戸^{なんど}かまえ構^{かまえ}となっています。

物置 後に「おかつて」に変更し、右側に土間が増設されます。

客用
便所

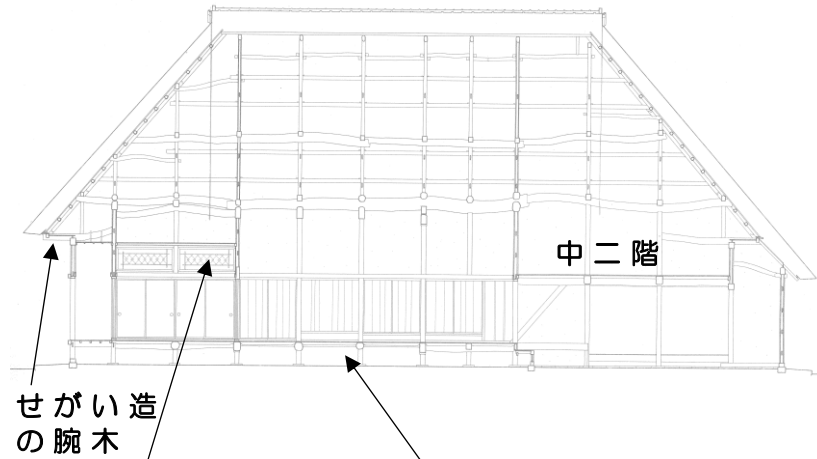


仏間 仏壇も建物と同時期のものです。

ちゃのま 27畳と広く、中央どま寄りに囲炉裏があり、日常客はここに迎え入れます。

だいどころ (どま) 左奥に中二階へ上がる階段があります。

梁組 上下二段の複雑な梁で、吹き抜きの「ちゃのま」上部は太く湾曲した材を用いています。多くは松の丸太で、八角ないし四角に削り落としています。



天井 台所には根太天井が張られ、その上が中二階となっています。仏間・おく・はちじょう・縁側・玄関には、さおぶち天井が張られ、他の部屋は当初吹き抜けでしたが、後に天井が張られました。

押板 奥行きのある浅い床の間で、御札や御幣を飾る家もあります。平野家では「ちょうじきさま」と呼んでいました。